

国立大学図書館協会ビジョン2020に基づく活動について
-ビジョン採択から2年を迎えて-

図書館環境高度化委員会

-活動・成果・今後の取り組み-

筑波大学学術情報部長 鈴木秀樹

図書館環境高度化委員会の設置目的

- ▶ 知を創出する場としての大学図書館のサービスの高度化および地域・社会との協働に関する企画・立案を行う

(『委員会設置要項』 5. 設置目的 (5) 図書館環境高度化委員会)

重点領域と戦略的目標

▶ 国立大学図書館協会ビジョン2020 重点領域2

知の創出：新たな知を紡ぐ〈場〉の提供

重点領域と戦略的目標

▶ 【目標1】 知を創出する場の拡大・整備・提供

- ・人と知識や情報，人同士の相互作用を生み出すコミュニケーションの場の提供
- ・場の拡張による，教育・学習・研究を通じた知の創出促進

▶ 【目標2】 社会に開かれた知の創出・共有空間の提供

- ・学術コミュニティに限らない，知を媒介とするさまざまな人々の集いの場の提供
- ・新たな知の創出と共有を実現する場の提供

事業内容

【新たな知を創出するための調査・企画】

- ▶ 教育・学習を支援する機能の更なる高度化
- ▶ 研究を支援する機能の展開

【教育・学習・研究支援機能のための企画・立案】

- ▶ 図書館に限定しない機能の実現
- ▶ 大学全体へ広げるような活動
- ▶ 機能に携わる人的資源としての新たな人材の参画促進
- ▶ 既存の人材育成と資質向上

【機能拡充のための検討】

- ▶ 外部組織連携・連絡調整
- ▶ 地域・社会との協働

平成28年度の活動

【ワークショップ】

平成28年度国立大学図書館協会シンポジウム 「これからの大学図書館環境を考える」

1. アイスブレイキングトーク：

図書館環境に係る先進的知見の共有と今後の方向性
(竹内委員長×宇陀委員)

2. グループワーク：

アクションプラン形成に向けたディスカッション・成果発表・質疑応答

- ▶ 西会場：平成29年2月20日（月） 於 九州大学附属図書館伊都図書館（九州大学附属図書館共催）参加者数：24名
- ▶ 東会場：平成29年2月27日（月） 於 LMJ 東京研修センター 参加者数：25名

平成28年度の成果

～ シンポジウム「これからの大学図書館環境を考える」報告

【目的】

- ▶ 各大学のミッションや中期目標等に沿って、独自の教育・学習及び研究支援高度化アクションプランを立案・策定する契機とする。

【成果】

- ▶ 他大学とのアイデア共有の機会
- ▶ 大学図書館の枠を超えた多様なアイデアの提示
- ▶ 柔軟かつ大胆な発想を行う訓練の機会
- ▶ アクションプラン策定に向けたリソースの議論
- ▶ 他大学の異なる職位のメンバーとの議論における刺激
- ▶ 新しい可能性の発見



平成29年度の活動

【ワークショップ】

「これからの大学図書館を考える」地区ワークショップ

1. 基調講演

「公共図書館を核とした地域の価値創造：カルチャア・コンビニエンス・クラブの経験から」

講師：高橋聡氏（カルチャア・コンビニエンス・クラブ株式会社公共サービス企画カンパニー長）

2. グループワーク：大学図書館機能の精査・機能選別と機能強化の提示

・成果発表・質疑応答

- ▶ 東北会場：平成30年3月 9日（金） 於 東北大学附属図書館 参加者数：8大学 1研究機構 29名
- ▶ 近畿会場：平成30年3月16日（金） 於 京都大学附属図書館 参加者数：14大学 21名

平成29年度の成果

～ 「これからの大学図書館を考える」地区ワークショップ報告

【目的】

- ▶ 「国立大学図書館協会ビジョン2020」を基とした教育・学習及び研究支援の更なる高度化を目指したアクションプランの立案・策定の契機とする。

【成果】

- ▶ 民間企業によるアプローチ・利用者視点を得るためのプロセスの享受
- ▶ 綿密な調査に基づいた利用者目線のコンセプト設定への刺激
- ▶ 大学図書館の資源を活用した新アイデアの提示
- ▶ 新アイデア実現のための事業に関するディスカッション
- ▶ 設定課題における刺激的な意見交換



今後の取り組み

▶ 2018年度

- ▶ (1) ワークショップの結果を分析し、方策となりうる要素を抽出・分類
- ▶ (2) 全国の国立大学の高度化に向けた方策を抽出・分類
- ▶ (3) 大学図書館以外の先進的事例調査
- ▶ (4) 抽出分類した要素を体系化

▶ 2019年度

- ▶ (1) 抽出分類した要素を元に図書館環境高度化に向けたツール集案の作成
- ▶ (2) ツール試行とフィードバック

▶ 2020年の成果公開を目指して